

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
自主創造の基礎 1 self-independence and creativity 1		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	日本大学への編入を希望する学生のための科目です。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
<p>の授業は、大学生としての基本的な資質を育成するための日本大学全学共通初年次教育科目である。「自主創造の基礎1」では、日本大学で学び研究することの意義と方法について学修する共に、大学入学までの受動的な学習から転換をはかり、主体的な学修について習得させる。この授業科目は、いわゆる専門教育の前段となる基礎教育だけではなく、社会人として学修することの意義やその在り方について授業を通じて理解し、“自主創造型パーソン”を育成することをねらう。</p>				
授業の目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・大学における学習の基本的姿勢や方法を修得し、実践できるようにする。 ・専門科目での学習に活かせる研究や学習の方法を修得し、実践できるようにする。 ・グループ研究やプレゼンテーションの方法を修得し、実践できるようにする。 				
授業の方法				
「個人ワーク」「グループワーク」「発表・共有」通し、“自ら考え行動する”ことを主眼にアクティブ・ラーニングの授業形態とする。				
学習の成果（学習成果）				
<ul style="list-style-type: none"> ・自主創造とはどのような考え方なのか、説明できる。 ・日本大学の歴史の概要を説明することができる。 				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	スタートアップ：自主創造型パーソンとは（初年次教育の概要の理解）			
第2回目	日本大学の歴史			
第3回目	大学で学ぶということ（高等学校との「学び」の違い）			
第4回目	授業を受ける（講義・演習・実習・ゼミナールの作法、討論・質疑）			
第5回目	文献（本・論文・各種資料）を探す 図書館見学 図書館・インターネットの利用法			
第6回目	文献の読み・まとめる 文献の読み方・まとめ方			

第7回目	文献のレポートを作成する レポートの作成方法	
第8回目	グループワーク 1 発表・討議	
第9回目	グループワーク 2 発表・討議	
第10回目	プレゼンテーションの基礎 1 プレゼンテーションの方法	
第11回目	プレゼンテーションの基礎 2 グループワーク	
第12回目	プレゼンテーションの実践 1	
第13回目	プレゼンテーションの実践 2	
第14回目	課題学習 課題レポートを書く	
第15回目	まとめ	
事前・事後学習	事前学習(シラバスの学習ポイントを自分で調べ、質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを見直しながら、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜き、3)自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	20%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験	20%	期末記述試験
発表内容(態度含む)	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
		『“自主創造”のためのLearning Guide』(日本大学FDガイドブック)及び長江庸泰作成の“デジタルテキスト[自主創造2019年度版]”を活用する。
履修上の留意点・ルール		
		●実務経験(職種：会社役員、職歴：通算39年) 本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自主創造の精神に基づく課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。